

# 千葉歴史の散歩道

## 印旛郡酒々井町周辺の初期荘園の遺跡

千葉県教育庁教育振興部文化財課埋蔵文化財班長 木原 高弘



皇族や豪族が個別に土地・人民を支配する体制をやめて公地・公民とし、口分田を与える班田収授制をはじめとする律令制は奈良時代に確立した。しかし、8世紀半ばには早くも耕地の不足が生じ、朝廷によって耕地拡大の施策をとられ、743年の墾田永年私財法などによって、開墾地の私有が認められるようになる。その結果、大寺院や貴族は大規模な開墾を行い、荘園を所有するようになる。この奈良時代から平安時代前期（8～9世紀）に成立した荘園を初期荘園といい、その性格をもつ遺跡が印旛郡酒々井町周辺の高崎川流域において発見されている。

尾上木見津・駒詰遺跡は、東関東自動車道の酒々井インターチェンジ建設に伴い発掘調査され、廂が付いた大型の掘立柱建物などの荘園の管理施設とみられる建物群、官人が身に着けた帯金具や鉄製農具などが出土した祭祀跡が見つかっている。また、この遺跡から出土した二彩椀や三彩陶枕は、一般の集落ではほとんど出土しない希少な高級陶器で、中央の大寺院や貴族との関係を示している。

飯積原山遺跡は、酒々井プレミアムアウトレットが所在する土地区画整理事業地の開発に伴い発掘調査された。集落全体が溝で区画され、掘立柱建物、竪穴住居が計画的に配置されている。最大の掘立柱建物群は官衙（役所）によく似た「口」の字状に建物が並んでおり、「三倉」と記された墨書土器が多数出土していることから、倉などが建つ管理施設と考えられる。よく似た

建物群は、国道51号と国道296号が交差する付近に位置した北押出し遺跡・本佐倉外宿遺跡でも見つかっている。

以上の遺跡は、荘園を示す「庄」のほか、「奈野」、「奈」の共通する墨書土器が出土していることから、所有者が同じ荘園の開発・経営拠点と思われる。

なぜこの地域に初期荘園が営まれたのか。初期荘園の開発・経営を行うための労働力を確保するには、地域の有力者の協力が必要である。佐倉市白銀地区の宅地開発事業に伴い発掘調査された高岡大山遺跡は、この地域の豪族であり、古代の下総国印旛郡を治めた郡司である「丈部直」氏の居所と推定されており、その協力を得やすい地であったからであろう。官衙・官人との関わりがうかがえる遺構・遺物が見つかっていることはそれを物語っている。

この地に初期荘園が存在したことは、文献史料には現われない、埋もれた歴史であり、地道な発掘調査の蓄積によって明らかになったことである。私たちの身近にある遺跡は、地域の歴史・文化を知るうえで欠かすことができない遺産なのである。



尾上木見津遺跡出土の二彩椀（酒々井町教育委員会提供）

千葉教育 萩 (No. 663) 令和2年9月3日発行

編集・発行 千葉県総合教育センター（代表）櫻井 比呂樹  
〒261-0014 千葉市美浜区若葉2-13 TEL 043-276-1204  
URL <http://www.ice.or.jp/nc/>

印刷所 千葉県療育センター いずみの家  
〒261-0003 千葉市美浜区高浜4-8-3 TEL 043-216-2465